

# 中外炉工業 新商品開発を強化

## 高付加価値工業炉、付帯設備など

鉄鋼・非鉄金属加熱炉や熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市中央区、社長・尾崎彰氏）は、熱処理炉用水素バーナの開発やアンモニア燃焼バーナの研究を進めており、脱炭素社会に貢献する商品開発に注力している。

中外炉工業は熱技術（サーテ、多様化するユーザーニーズ（モテック）に強みを持ち、エズに的確かつ迅速に対応できる業炉などのエネルギー分野、る体制を整えている。また部

製造装置の情報・通信分野、開発の幅を広げている。自前大気浄化設備などの環境保全分野に関する幅広い工業炉や付帯設備を製造している。

約3年前から商品開発部（現在16人）を社長直轄として進めている。そして新規商

品の開発だけでなく既存商品をブラッシュアップして、ユーザーへの高付加価値商品の提供も行っている。

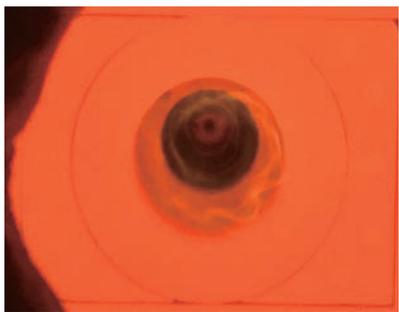
これまで、熱処理炉用水素バーナの開発やアンモニア燃焼バーナの研究など商品化に結び付けた技術のほか、産学連携による共同研究を進めている案件などが数件ある。

### 顧客ニーズに対応

友澤健一商品開発部長は



「作ったモノが売れてこそ商品開発の存在価値がある。当社の別部門や大学・企業などあらゆる機関と連携して開発技術を高めて、顧客ニーズに的確に対応できる商品を開発していきたい」と語る。今後も商品開発部は技術研究を進めながらユーザーとも密に連携を取り、技術開発による商品化を推進していく方針。



都市ガス燃焼時①、アンモニア燃焼時の様子。アンモニアは燃焼しても二酸化炭素を排出しない燃料として注目されている。出典＝NEDO先導研究プログラム21年度